

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	0173700246		
法人名	有限会社グッドライフ		
事業所名	グループホームアウル		
所在地	伊達市舟岡町337番地 1 (電 話) 0142-21-1680		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年4月10日

【情報提供票より】 (20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人, 非常勤 3人, 常勤換算	11.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000~20,000 円
敷 金	有 (90,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (2月27日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	1	要介護 2	4
要介護 3	7	要介護 4	5
要介護 5	1	要支援 2	0
年齢	平均 85.2 歳	最低 72 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 譲仁会 聖ヶ丘病院・さかた歯科医院・三恵病院・伊達赤十字病院 他
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は住宅街に立地し、平成14年に開設された。事業所内は吹き抜けによる開放感と木のぬくもりであふれ、また昔ながらの家具がさりげなく設置されるなど、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。「その人らしい暮らし」を保障する理念を基に、全職員が一体となって質の高いケアサービスを提供している。また、職員の対応は常に穏やかであり、的確な知識と技術により、利用者一人ひとりの状況に応じた支援を行っている。ターミナルケアにも取り組んでおり、今後も利用者が安心して暮らし続けることが期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題であった項目について、洗濯室などの水周りの清掃を十分に行うとともに、塩素系の洗浄剤の保管場所を利用者の目の届きにくい場所に変更するなど、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットごとに職員間で話し合い、自己評価に取り組んでいる。また、改善課題を更なる質の向上に繋がるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度、季節に応じた行事実施に合わせて運営推進会議を開催し、利用者家族・民生委員・市役所職員等が参加し意見交換を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に事業所内部・外部の苦情相談窓口を明示し、家族に説明するとともに、事業所の玄関に苦情ボックスを設置し、家族が意見・要望等を伝えやすい工夫をしている。また、意見等を受けた場合は職員間で話し合い、事業所の運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会に加入し、地域の行事や役員会に参加している。今後も地域行事に積極的に参加し、地域との連携をより深めていく予定である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合い、作り上げた基本理念・ケア理念を基に、地域においてその人らしく生活できるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や居間に理念を掲示するとともに、理念が記載されたカードを携帯しており、常に確認しながら、日々のケアサービスを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ユニットごとに自治会に加入し、地域と交流する機会を設けている。	○	今後も地域行事に参加する機会を積極的に設け、地域住民と交流を深めることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価・外部評価の意義や目的を理解しており、全員で真摯に取り組んでいる。また、前回評価での課題について、職員間で話し合い、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	季節ごとの行事実施に合わせて運営推進会議を開催し、利用者家族・民生委員・自治会長・市役所職員等が参加している。会議では事業所の運営状況等について報告し、意見交換を行っている。	○	今後は会議で出た意見等を全職員に周知し話し合う機会を設け、事業所の運営に反映させるとともに、サービスの更なる質の向上に取り組むことが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に事業所の運営状況等の報告を行うなど、日常的に連携をとっており、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月事業所便りを送付し、事業所の運営状況等について報告している。また、金銭出納に関しても定期的に家族に報告し、内容を明確にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所内部・外部の苦情相談窓口を明示するとともに、玄関に苦情ボックスを設置し、家族が意見・要望等を伝えやすい工夫をしている。また、家族から意見等を受けた場合は職員間で話し合い、事業所の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等があった場合は、利用者個別に対応するなど工夫し、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内部の研修を実施しているとともに、外部研修にも交替で参加し、更なる質の向上に向けて取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会地域ブロックに加盟し、中心的役割を担っており、同業者との交流を通じサービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。	○	今後も、全職員が高い志を持ち、継続して同業者間のネットワークづくりに努めることが期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に事業所を見学してもらったり、体験利用をしてもらうとともに、入居までの期間に事業所便りを送付して情報提供を行い、利用者が事業所の雰囲気馴染んでからの入居となるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴や生活習慣等を十分に把握し、一人ひとりの思いを共有しながら日々のケアサービスを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴や生活習慣を基に、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、本人本位となるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づいた具体的な目標を掲げ、職員間で話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画を確認し、3ヶ月ごとに見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人・家族の希望に応じた柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と情報交換を行い連携を図りながら、利用者の状況に応じた受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の方針について介護指針を作成し、入居契約時に家族に説明し、同意を得ている。また、利用者の状況変化に応じてそのつど家族と話し合い、意思を確認しながら情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護や個人情報の取り扱いについて、定期的に研修を実施しており、適切に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状況や生活習慣を踏まえ、一人ひとりの希望に応じた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	和やかな雰囲気の中で、利用者と職員が会話を楽しみながら、同じ食卓で食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や生活リズムに合わせて入浴時間を設定し、寛いで入浴できるよう支援している。また、夜間の入浴希望にも対応するなど、一人ひとりの生活習慣を大切に支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴を把握しており、一人ひとりの好きな事や得意な事を発揮できるような、役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じた買い物・食材の買出し・ドライブなど、日常的に外出できるよう支援している。	○	今後も、利用者の希望に応じて外出する機会を増やすよう検討しており、継続して取り組むことが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の理由から夜間は施錠しているが、日中は職員の見守りにより、鍵をかけず利用者が自由に外出できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら、年に2回避難訓練を実施している。また、その際に自治会長や民生委員の参加協力も得られており、緊急時に連携を取れるような体制を整えている。	○	今後は日中のみならず、夜間も想定した避難訓練を実施し、緊急時に備えることが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事・水分摂取量を記録し、情報を共有しながら、一人ひとりの状況に応じた支援を行っている。また、栄養士の資格を持つ職員が栄養面を確認し、適切に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木のぬくもりであふれ、音・光も適宜調整しているとともに、昔懐かしい家具を設置するなど、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた馴染みの家具や食器が持ち込まれており、本人が安心して過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。